



老人クラブをPR、 若手の声も取り入れて会員増へ

鳥取県 伯耆町老人クラブ連合会
（ほうきちやう）
 クラブ数・42 会員数・1821名（男性・759名・女性・1062名）



ただいまアンケート集計中



スクエアステップで転倒予防、認知機能向上

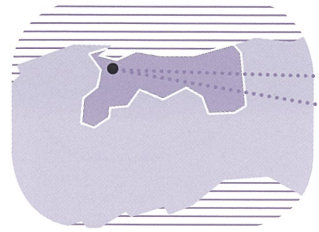
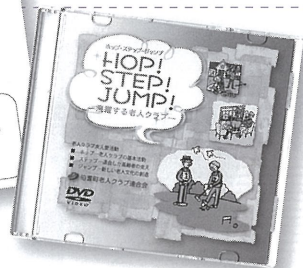
新会員が増え続けることが重要です。決して満足できるものではないかもしれませんが、今後も根

新規会員募集中!
 ~あなたの参加をお待ちしています~

老人クラブ活動は地域活動のひとつです。60歳からの時間を9割は自分のためにつかい、残り1割を老人クラブ活動にあててみませんか?

老人クラブでは、ウォーキング、研修旅行、社会奉仕などの他、地域の青年活動や交流活動も行なっています! 安全、近隣の公園に集まるサロンもあります! 老人クラブは年齢を問わず参加できるのが魅力です!

お問合せは
 お住まいの地域の単位老人クラブが、
 伯耆町老人クラブ連合会
 事務局 68-4635まで



鳥取県 伯耆町

気強く続けてまいります。

若手委員会が進める 新規事業

本町行政が推奨する介護予防の新しいエクササイズ「スクエアステップ」の取り組みを、若手委員会主催の新規事業として導入しました。スクエアステップと従来から取り組んでいたウォーキングは、本町の「健康ポイント対象事業」にしていたとき、新たな層の会員獲得を目指しています。さらに、各単位クラブに若手活動員を設置することで、新たな仲間づくりがスタートしました。

今後の会員獲得に向けての課題

現在、次の課題をあげて取り組んでいます。

- ① 勧誘報奨金新設
- ② 全単位クラブへ若手活動員の設置
- ③ 活動メニューを増やし（新規事業の検討）、体験参加型メニューを作る
- ④ 会員制度の見直し（賛助会員、永久会員）、会費制度の見直し

伯耆町老連では、平成17年度に2638人だった会員が毎年減り続けています。会員の減少を分析すると、退会、会員全体の高齢化による休会、単位クラブ役員が高齢化して後継者がいないため解散するなどの要因があります。会員の減少に拍車をかける実態に危機感をもって、歯止めをかける必要があります。

本会では加入促進に関連する事業として、平成23年度に会員年齢構成調査、若手委員会設置、24年度に未加入者アンケート、同時に支え合い活動アンケートを実施しました。そして、平成25年度は新規会員加入促進運動を実施、26年度には単位クラブにおける若手活動員の設置を進めています。

広報活動と 老人クラブのPR

老人クラブ活動PRのために、年5回広報誌を発行して全戸（約3500）に配布しています。広報誌作成にあたっては若手委員も編集会議に参加して、若手の意見も取り入れています。広報誌は「老人クラブは何をしているのか分からない」という声を少しでも軽減するために大変重要です。

- ⑤ 勧誘活動の継続
 - ⑥ 広報活動継続（会員以外の住民にも活動情報の発信）
 - ⑦ 活動参加できなくなった会員の扱い
 - ⑧ 休会、解散クラブの防止（合同行事、隣接クラブとの合併）
 - ⑨ 自治会、関係団体などの協力（行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター）
 - ⑩ 自治会の支援を得て、解散、休会クラブの復活、クラブ未設置地域へのPR
- 全地域を挙げて仲間づくりを進めるためには、自治会の協力が重要とされます。「100万人会員増強」を目標にする今こそ、自治会長へお願いする時です。
- 団塊の世代を巻き込んだ仲間づくりは今しかありません。会員がそのことをよく理解して危機感を持ち、全会員、各単位クラブ、連合会が知恵を出し合って仲間を増やそうと奮闘中です。
- 加入促進は、この事業をすれば必ず会員が増えるというのではなく、特効薬はありません。結果は別として、新たな試みに取り組みが必要だと思います。魅力のある老人クラブづくりは、連合会がいかに関頭取りするかにかかっています。
- （若手委員長 加川重之）